

山形城(霞城(かじょう), 霞ヶ城(かすみがじょう), 吉字城)

(国の史跡, 百名城) (山形市霞城町) (霞城公園)

山形城(やまがたじょう)は、山形県山形市霞城町にあった日本の城。別名は霞城(かじょう)、霞ヶ城(かすみがじょう)と呼ばれる。また、吉字城とも呼ばれた¹。国の史跡に指定され、日本100名城に選定されている。

概要

おおよその城郭構造の基礎は、最上義光の時代につくられ、鳥居忠政の時代に現在の形に整えられたものである。江戸時代には山形藩の政庁が置かれた。現在は、そのほとんどが失われ、二の丸跡が霞城公園として残されている。建造物では、大手南門が、市内の万松寺山門として移築され現存する。また、市内八日町宝光院の本堂は、御殿の建物を移築したものとされている。(県指定文化財)

山形市は、2033年をめぐりに本丸全体の発掘調査を完了させるとともに、本丸北柵形の復元を完了することを計画している。2012年度末現在、本丸は一文字門及び御殿等の写真・図面などの史料が発見されていないことにより、大型建築物の復元のめどは立っていないが、本丸大手門の高麗門及び土塀は時代考証に基づき復元が行われている。2013年の発掘調査は本丸西側濠の遺構が中心となり、本丸濠南西部に関しては本丸土塁構築が出来る状態となっている。2013年の発掘調査では三の丸跡から奈良・平安時代のもものと推定される竪穴住居跡6棟が発見され、城下町は古代から存在した集落を基盤として形成されたのではないかとみられている。

歴史・沿革

近代以前

1356年(南朝:正平11年、北朝:延文元年)に斯波兼頼が羽州探題として山形に入部し、1357年(南朝:正平12年、北朝:延文2年)初期の山形城が築城される。以後、出羽斯波氏は最上氏を名乗り、最上氏本宗家の居城となった。最上義光が、慶長年間に城郭を拡大し三の丸を構築、家臣団の屋敷が置かれた。さらに城下町を整備し、慶長出羽合戦で得た出羽57万石の本城となる。元和8年(1622年)最上氏が転封された後、鳥居忠政により改修がなされた。鳥居氏以後、たびたび藩主の変更があり、改修もなされたが、山形藩を治める藩主の石高も減少したため、江戸中期以降は城の維持が困難になる。幕末には本丸は更地で、御殿も二の丸に置かれ、三の丸の西半分は田畑となっていた。

近代

- 明治時代、城が売りに出されると、山形市が購入し、陸軍の駐屯地を誘致した。歩兵三十二連隊の兵営敷地となり、城内の櫓や御殿は破却され、本丸は埋め立てられた。三の丸の堀も埋め立てられ耕作地として利用された。
- 日露戦争凱旋を記念して歩兵三十二連隊の帰還将兵が、明治39年に周囲にソメイヨシノを植林。以降桜の名所となった。

現代

- 戦後、二の丸の内側は霞城公園になり、二の丸の外側は市街地化が進み、三の丸の濠も埋め立てられた。
- 1986年(昭和61年) 国の史跡に指定され、江戸末期の資料に基づいて、東追手門や本丸の復元が行われる。
- 1991年(平成3年) 二の丸東大手門が修復及び復元される。この門の規模は江戸城の城門に匹敵する。
- 2006年(平成18年) 本丸の正門に当たる一文字門に架かる大手橋が復元される。

- 2006年（平成18年）4月6日、日本100名城（10番）に選定される。
- 2013年（平成25年）本丸大手門枡形内の高麗門及び土塀が復元され翌年8月から公開が始まった。

構造

規模

山形城三の丸の広さが235万㎡であり、城自体の建物や構造など異なるが、日本国内では5番目の広さで、奥羽地方では最大の城であった。しかし、度重なる藩主交代に伴って石高が削減される一方の山形藩にとっては、維持することすら困難となる広さであった。そのため、手入れが行き届かず、秋元氏時代（明和4年〈1767年〉）には二ノ丸東大手門の門中央の破損が著しいことから、修理した際に多門櫓が渡る櫓門であったものを、傷みの著しい中央部分のみを修理したため平櫓2基の間に渡すような姿となっていた。その様子は、明治初期に撮影されている。幕末期の水野氏5万石時代には荒廃したままである部分もあった。

- 山形城外郭（三の丸）：2,350,000㎡
 - 霞城公園（山形城二の丸、内郭）：359,000㎡
- 姫路城外曲輪：2,330,000㎡
 - 姫路城内曲輪：230,000㎡
- 江戸城（内郭）：2,300,000㎡
 - 江戸城外郭は周囲16km。
- 大阪城公園：1,067,000㎡
- 弘前城：490,000㎡
- 松本城：391,000㎡

城郭

山形城は、本丸、二の丸、三の丸が、同心円状に配置された輪郭式平城である。二の丸には5つ、三の丸には11の出入り門が作られた。中世の居館を拡張して城郭とし、本丸は御殿のみで天守は造られなかったが二ノ丸に御三階櫓が建てられた。二の丸は一辺500メートルほどの方形、三の丸は1.5キロメートルから2キロメートルほどの楕円形であった。本丸には御殿、二の丸には藩の政庁と御三階櫓が、三の丸には534人の上級、中級の最上家家臣の屋敷、城外には1,326人の家臣の屋敷と寺院が町方を取り囲むように置かれた。

現在地上に残っている、山形城跡を取り囲む水堀は、二の丸の濠であり、良く保存されている。三の丸の水堀は江戸期の終わりごろには埋没し、湿地化していたところが多かった。多くは現在、住宅地などの地下に埋没しているが、発掘調査の結果、良く保存されていることが確かめられた。

本丸

- 建物・郭：御殿、石垣、濠
- 広さ：東西約150m、南北約160m、約7千坪
- 出入り門：一文字門、北不明門
- 二重櫓3基

二の丸

- 建物・郭：濠と石垣、土塁
- 広さ：東西約396m、南北約427m、約51800坪
- 出入り門：4
- 東大手門一ノ門（多聞櫓門）、東大手門二ノ門（高麗門）、南大手門、北不明門、西不明門
- 三重櫓1基 二重櫓5基

三の丸

- 建物・郭：濠と土塁は、明治維新以降破却。現在では十日町歌懸稲荷神社境内などにごく一部のみ残っている。
- 広さ：東西約 1580m、約南北 2090m、約 235 万 m²
- 出入り門：11
 - 小橋口、かすがい口、七日町口、横町口、十日町口
 - 吹張口、稲荷口、飯塚口、小田口、下条口、肴町口

別名・その他

- 山形城は、その別名を霞城（かじょう）と呼ばれる。関ヶ原の戦いに関連して、米沢城主直江兼続率いる上杉軍が山形に侵攻し、長谷堂合戦が起こった。その際、現山形市街地の西にある富神山の麓の菅沢に陣を構えた上杉勢からは霞がかかってその位置を隠したことに由来する。

Wikipedia による



復元二の丸東大手門



本丸一文字門

